

Overview: 神の永遠の定められた御旨は、神の聖なる建造を持つことです(I)。私たちは、建造のビジョンを見るために、命において円熟し(II)、見るための正しい地位、立場、角度を持ち(III)、神の裁きを経過して資格づけられ(IV)、目で見、耳で聞き、心にとめ、宣言する(V)必要があります。VIからXは、神の家の建造の際立った特色、すなわち、壁、城門(外側の敷居、通路、内側の敷居、廊)、内庭、外庭、祭壇、北側と南側にある聖なる部屋についてのビジョンです。

I. 神の永遠の定められた御旨は、神ご自身と彼の選ばれた民とのミングリングとしての建造を持つことです。神が彼の民の間で、また地上の諸国民の間で行なうことは何であれ、彼の建造のためです。これは啓示録によって確認されます。啓示録はエゼキエル書と並行しており、神の究極の建造、すなわち新エルサレムをもって結んでいます:

啓21:10 **そして彼は私を霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下って来るのを私に見せたが、**

A. ソロモンが建てた宮が破壊された後、バビロンから帰還した捕囚の民によって、宮は再建されました。

B. 後ほど、この宮は、四十六年かけて建てられたヘロデの宮に置き換えられました。ヘロデの宮は紀元70年に、タイタスの下にあるローマの軍隊によって破壊されました。

C. エズラの時代の宮もヘロデの時代の宮も、ソロモンが建てた宮の完全な回復ではありませんでした。しかしながら、エゼキエルのビジョンの宮は、ソロモンの宮の完全な回復を超えるものでした。宮そのものはソロモンが建てた宮と同じ大きさでしたが、エゼキエルのビジョンにおける城門、庭、宮の周りの建物に関する多くの詳細は、ソロモンの宮の拡大を示しています。

D. ですから、アブラハムの天幕に始まり、幕屋に進展し、そしてソロモンの宮に進展し、エゼキエルのビジョンにおける宮をもって終結し、旧約における神の建造の拡大における継続的な進展があります。この拡大が表徴するのは、神の民がキリストを経験することにおいて継続的に増し加わることです。

E. 新約における神の霊的な建造は、神の幕屋また神の宮としてのイエス・キリスト、すなわち肉体と成った神に始まり、キリストの拡大としての召会、すなわちキリストのからだに前進し、永遠における神の建造の究極の現れまた拡大としての新エルサレムをもって究極的に完成します。

F. エゼキエル書第40章から第48章における神の聖なる建造に関するビジョンは、文字どおりには復興の時に成就されます。その時、復興されたイスラエルは、千年期に神と共に住むために、宮とエルサレムの都を再建します。

VI. 家の周囲の壁は、神に属するものを、彼に属することができないものから分離するためです:

エゼキエル40:5 **見よ、家の外側の周囲に壁があり、その人の手に長さ六キュビトの測りざおがあって、このキュビトはそれぞれ一キュビトと一ツァであった。彼がその建築物の厚さを測ると、一さおであり、その高さも一さおであった。**

A. 壁の厚さと高さはいずれも六キュビトです。ですから、壁の交差する部分は、六キュビトと六キュビトの正方形です。

B. 六の数は、六日目に創造された人を表徴します。ですから、六キュビトの正方形の交差する部分がある壁は、真っすぐで、完全で、全体的な人としてのキリストご自身を表徴します。

C. そのようなキリストは、神の建造の分離する線です。キリストの中に含まれているものだけが、神の権益と神の建造に属します。

エペソ2:21 **その方の中で、建物全体が共に組み合わされ、主の中にある聖なる宮へと成長していき、**

II. エゼキエルは最初のビジョン、すなわち主の栄光の現れのビジョンを見た時、三十歳でした。それは祭司が機能し始める年齢です。彼は最後のビジョン、すなわち神の聖なる建造のビジョンを、二十年後、五十歳の時に見ました。それは祭司が退く年齢です。これは、エゼキエルが神の建造を見るために、命においてさらに円熟する必要があったことを示しています:

エゼキエル40:1 **私たちの捕囚の二十五年目、その年の初め、その月の十日、都が打ち倒された後、十四年目のその同じ日に、私の上にエホバの御手が臨み、彼は私をそこへ連れて行かれた。**

A. 年の初めは、神の建造のビジョンが私たちに新しい開始にもたらすことを示しています。

B. 第一の月の十日は、イスラエルの民が過越の小羊を用意した日でした。これが示しているのは、私たちのクリスチャン生活のあらゆる新しい開始が、キリスト(過越の小羊)と、彼の贖いに基づいているということです。

III. 神の聖なる建造のビジョンを見るために、エゼキエルは捕囚の地から、イスラエルの地(神が彼の民に割り当てた分け前としてのすべてを含むキリストの予表)にある、またエルサレムの都にある高い山(キリストの復活と昇天を表徴する)に連れて行かれました。これは、エゼキエルがそのようなビジョンを見る正しい地位、立場、角度でした。

エゼキエル40:2 **彼は神のビジョンの内に、私をイスラエルの地へ連れて行き、非常に高い山の上に下ろされた。その上の南に、町のような建築物があった。**

IV. 建物の城門の所にいる青銅の人はキリストです。青銅は、神の裁きによって試験されることを表徴します。キリストは神の裁きを経過して、完全に資格づけられ、神の建造に属するものを測ります(裁くことによって所有します)。

V. 「その人は私に言った、『人の子よ、あなたの目で見、あなたの耳で聞き、私があなたに見せるすべてのことを心にとめよ。あなたがここに連れて来られたのは、それをあなたに見せるためである。あなたが見ることをみな、イスラエルの家に告げよ。』(エゼキエル40:4):

A. 神が彼の建造のビジョンをエゼキエルに見せていたとき、預言者は鋭敏な視力を持って、一心に聞く必要がありました。

B. さらに、彼は見せられたものを吸収するために、それらに心を置かなければなりません。そのとき彼は神の民に、見て聞いたことをすべて宣言することができました。

VII. 城門は四つの区分に分かれています。すなわち、外側の敷居、通路(庭)、内側の敷居、廊です:

A. 城門は神の建造の入り口として、私たちが神の中へと、また神の権益、神の建造、神の王国の中へと入る門としてのキリストを表徴します。壁は罪人を神から分離しますが、城門は人々を神の中へと、また神の建造の中へともたらします。

B. 城門のそれぞれの側にある三つの詰め所が表徴するのは、詰め所がパーソン、すなわちキリストご自身であり、彼は三一の神(三)が人(六)と成り、十字架で「裂かれた」ということです:エゼキエル40:10 **城門の一方の側に三つの詰め所、もう一方の側に三つの詰め所があり、三つとも同じ寸法であった。**

1. 六つの詰め所はそれぞれ六キュビトの正方形であり、それゆえに壁の交差する部分と同じ大きさです。これが示しているのは、主イエスが彼のパーソンと働きにおいて、神の栄光と聖の保護であるということです。

2. 城門としてのキリストを経過することによって、私たちは資格づけられ、神の栄光と聖に満ちた神の建造の中へと入ります。

C. 廊の幅は六キュビトであり、六の数は六日目に創造された人を表徴します。廊の長さは八キュビトであり、八の数はキリストの復活を表徴し、それは新しい開始として新しい週の初めの日に起こりました:

1. これらの寸法が表徴するのは、主イエスが人として、神の建造の城門であり、完全に復活の中にあるということです。

2. これらの寸法がまた表徴するのは、私たちが廊に到達するとき、復活の中に、新しい開始にいるということです。

D. 城門の入り口の幅は十キュビトでした。この十の数は十戒を暗示します。これが示しているのは、十戒が要求することは何であれ、城門の入り口が満たすということです。主イエスは「正方形の」、真っすぐで、完全な人として、十戒のすべての要求を満たし、私たちが神の建造の中へと入るための城門となりました。ローマ8:3 **神は、…ご自身の御子を罪の肉の様で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。4 それは律法の義の要求が、肉にしたがってではなく、霊にしたがって歩く私たちにおいて、満たされるためです。**

E. 城門の柱にあるしゅろの木が表徴するのは、神の聖と栄光の保護であるキリストが、永存する、勝利の方であり、立ち、担い、支え、勝利するということです。しゅろの木は荒野で生長し、常緑であって、勝利と永存する力を表徴します。キリストは柱であり、勝利の、永存する命をもって神の建造を支え、担います。

F. 外庭の東、南、北の側の壁の内側の周りに敷石の六つの異なる区分、あるいは領域があり、それぞれの区分には五つの部屋があり、全部で三十の部屋でした。敷石の上にある三十の部屋に加えて、四つの小さな庭が、外庭のそれぞれの隅一つありました。これらは、民が食べる犠牲を煮る場所でした：**1.** 敷石はおそらく石できており、私たちが石とする再生の立場を表徴し、私たちをこの世の汚れから分離します。**2.** 部屋は、民が犠牲を食べた場所でした。それが示しているのは、その部屋が、民が犠牲またささげ物としてのキリストを享受した場所であったということです(祭司は内庭で食べましたが、民は外庭で食べました)。**3.** 私たちは神の住まいの城門を経過した後、外庭に来て、部屋へと入り、私たちの再生の「石」の上に立ち、キリストを食べて享受します。彼はすべてのささげ物の実際です。

VIII. 内庭への城門の詳細は、外庭への城門の詳細と同じであり、私たちが内庭へと入るとき、キリストに対する経験を繰り返すことを示します。私たちが経験するのは同じキリストですが、彼に対してさらに多く経験します：

エゼキエル40:31 その廊は外庭に面し、しゅろの木がその柱の上にあり、その階段は八段であった。ピリピ3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、11何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。

A. 内庭への入り口に、別の一組の階段があり、八段から成っています。これは、私たちが神の建造の経験において内側に前進すればするほど、ますます高くなることを示します。

B. 八の数は復活を表徴します。これは、私たちが内庭へと入って行こうとするなら、復活の中にいる必要があることを示します。すべての天然の命と天然の人は廃棄され、十字架によって除去去られなければなりません。

C. 部屋は、おそらく内庭の北の城門の内側にあり、祭司が全焼のささげ物を洗うためでした。これは、私たちの経験のこの時点で、私たちが神のための全焼のささげ物となる用意があることを示します：

1. 私たちは内庭への城門を経過するとき、復活の中に、さらに高い層にいます。

2. ここで、私たちが単に外庭にいる一般の民ではありません。私たちが祭司となりました。祭司は、全焼のささげ物をささげることによって、主に対して務めをする用意があり、それは主に対して絶対的になる用意があることを意味します。

D. 祭壇は、キリストの十字架を表徴し、神の聖なる建造の中心であるだけでなく、神の聖なる建造の周囲でもあります：

1. 十字架は、城門、犠牲を食べること、煮る家、犠牲がほふられる食卓において暗示されます。ですから、十字架はあらゆる方向に、神の建造の隅々にまで拡大します。私たちが神の家で神と接触し、彼の豊富を享受したいなら、十字架を経過しなければなりません。

2. 十字架上の死は神にとっては解放であり、人にとっての消極的な事物にとっては終結でした。キリストの死において、神は人の中で死を経過して解放され、人は神の中で死んで終結させられました。

IX. 祭壇は十字架を表徴し、宮はキリストと召会(キリストのからだ)を表徴します：

A. 十字架、キリスト、召会は、新約の中心な主題であるだけでなく、全聖書の中心な主題でもあります。祭壇が宮の前に立っているのは、十字架がなければ、私たちは召会を持つことができないことを示します。私たちが十字架を経過してはじめて、召会の実際を持つことができます。

B. 私たちが生活と働きの中で行ない、言うことはすべて、十字架を通して、またその霊によってであるべきであり、キリストを他の人の中へと分与して、キリストのからだを建造するためであるべきです。

C. 宮の高さは内庭より十段高く、宮の外側の高さより二十五段高かったのです。これは、私たちが神の建造を経験するとき、内側に前進して行けば行くほど、ますます高く上ることを示します。

D. エゼキエルが円柱の寸法を与えていないという事実が示しているのは、それが無限で計り知れない支える力を表徴するという事です。ですから、それぞれの柱のそばの二本の円柱は、神の証し(二)としてのキリストが、無限で計り知れない力をもって神の家を担っていることを表徴します。

E. 廊の入り口の幅は十四キュビトであり、外側の宮(聖所)への入り口の幅は十キュビトであり、内側の宮(至聖所)への入り口の幅は六キュビトでした。これが示しているのは、私たちが神の建造を経験するとき、内側に前進して行けば行くほど、道はますます狭くなるということです。私たちが主にならなければなるほど、ますます彼によって制限されます。

F. 壁の厚さに関する六の数は、神の住まいの立つ力としての主イエスの人性を表徴します。幕屋において、真っすぐに立っているアカシア材の枠板も、主イエスの人性を表徴します。主イエスは正常な人として、神の建造の立つて支える壁です。

G. 表現のための三十の脇間は、享受のための三十の部屋に基づいています。私たちがキリストを享受した程度だけ、彼を表現することができます。私たちがキリストを享受することは、最終的にキリストの豊満、表現となります。H. 脇間が上るごとに広がっていることは、私たちが主と共に高い所へ行くごとに、経験においてますます広く、豊満になることを示します。これは、神の聖なる建造に対する経験が前進することを示しています。

I. 宮と関係のある建物のすべての部分は、木の羽目板が張り巡らされていました。木はイエスの引き上げられた人性を表徴します。エゼキエル書において、神の建造の主要な材料は、十字架につけられ、復活、昇天したイエスの人性です。

J. すべての木の羽目板を張り巡らしたものの上に、ケルビムとしゅろの木が彫刻されました：

1. ケルビムは、被造物の上に現される主の栄光を表徴します。荒野で生長する常緑のしゅろの木は、キリストの勝利とキリストの永続し永存する力を表徴します。

2. 壁の上にあるしゅろの木の彫刻とケルビムは、キリストの勝利と主の栄光が、苦難を通して私たちの存在の中へと「彫刻」されていることを示します。**3.** エゼキエル書第1章で、ケルビムには四つの顔がありましたが、壁の彫刻にはただ二つの顔、人の顔と獅子の顔があり、それは人性における勝利を表徴し、表現します。

4. 二つのケルビムごと一本のしゅろの木があったという事実は、私たちが神の建造の一部分として、キリストの栄光のかたちが現れるとき、キリストの勝利を現すことを表徴します。

K. この宮の中に立っている香壇は、木だけでできており、木はイエスの人性を表徴します：

1. 幕屋と宮の中に、香壇と臨在[供え]のパンの机がありました。しかしエゼキエル書のここで、香壇は食卓(机)でもあります。香壇は、私たちが香としてのキリストを神にささげ、彼に満足していただくためであり、食卓は、神が食物としてのキリストを備え、私たちが満足させるためです。

2. 木の香壇が置かれた場所には、ケルビムとしゅろの木が彫刻された木の羽目板がありました。これが示しているのは、私たちがキリストの栄光と勝利を現す者であるなら、香壇・食卓を持って、神と私たちがキリストの中で共に交わりを持つということです。ここで神は、私たちがキリストの中でささげる香によって満足し、私たちが、神がキリストの中で供給する食物によって満足します。

L. 召会の中で、「扉」の機能は、積極的な人や事物を入らせ、消極的な人や事物を出させることです。それぞれの扉に二つの折り戸があるという事実は、召会の中の扉に柔軟性があるべきであることを示します。

M. しゅろの木が窓のそばの壁に彫刻されていたという事実は、勝利と永続する力、強さが、常に霊的な空気と神聖な光と並行することを示します。これは、私たちの勝利と力が命を与える霊と関係があることを意味します。私たちが命を与える霊を享受するなら、キリストの勝利、力、強さも享受します。

X. 北側と南側に位置する聖なる部屋は、内庭と外庭を結び付ける建物です：

エペソ3:16 どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してください。17 またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。…19…あなたがたが満たされて、神の全豊満へと至るように。

A. 外庭の敷石の上にある部屋は、民がささげ物を食べるためですが、聖なる部屋は、祭司がささげ物を食べ、またささげ物を置いて蓄え、彼らの祭司の衣服を置くためです。ささげ物は、私たちの享受としてのキリストを表徴しますが、祭司の衣服は、私たちの表現としてのキリストを表徴します。

B. 聖なる部屋で、私たちが霊的な経験の最高峰に達します。聖なる部屋で生活することは、キリストの中で生活することであり、聖なる部屋でささげ物を食べることは、キリストを食べることであり、聖なる衣服を着ることは、キリストを着て彼を表現することです。

C. 聖なる部屋は脇間のように、三つの階になっており、キリストの豊満、表現に符合することを示します。祭司はキリストを享受して、彼らの部屋の高さがキリストの豊満の高さと等しくなるまでになります。

経験①: 神の家の建造のために、イエスの人性を経験して、分離する壁を建てる

壁の寸法は、分離する線としてのキリストご自身を表徴することを示します。キリストの内側にあるものは何であれ、神の權益に、また神の建造に属しますが、キリストの外にあるものは何であれ、神の權益と神の建造から除外されます。

壁が六キュビトの高さと六キュビトの厚さであり、六が人の数であるので、壁は、正方形で、真っすぐで、完全で、全体的な人としての主イエスを表徴すると言ってよいでしょう。正方形で、真っすぐで、完全で、全体的で、復活させた人として、キリストは分離する線です。彼は正方形で真っすぐであるので、完全に資格づけられています。彼には不完全さはありません。彼には何も欠けたところがなく、何も曲がったところがありません。そうではなく、彼のすべては直線で、真っすぐで、完全で、全体的です。再び私は言います。そのような人は分離する線です。

中高生編

神の建造の中に、罪に属するもの、この世に属するもの、天然の命に属するものなどの聖別されていないものが入って来れないようにするために、家の周囲の壁が必要です。エゼキエル書においてこの壁は非常に特別で、その高さと厚さは六キュビト(3m弱)です。この壁は正方形で、真っすぐで、完全で、完璧な人としての主イエスを表徴しています。召会、神の家を建造するためには、分離する壁がなければなりません。

最近の報道によると、将来を期待された著名な政治家や清潔なイメージを持っていた有名な女優が不倫に陥り、所属する政党を追われたり、CMやテレビ出演から降ろされたことが伝えられています。彼らはもちろん不倫が不道德なことであり、自分自身の家庭を破壊し、社会的にも受け入れられないことはよく分かっています。しかし彼らは、彼らの外側のこの世の腐敗した潮流と、内側の罪の性質のゆえに、不倫が自分の政治家人生や女優人生を台無しにすると分かっているにもかかわらず、それから離れることができなかったのです。

ローマ7:22 私は、内なる人によれば神の律法を喜ぶますが、23 自分の肢体の中には別の法則があって、私の思いの法則に逆らって戦っており、私の肢体の中にある罪の法則の中に、私をとりこにしているのを見ます。

1ヨハネ2:15 世と世にあるものを愛してはいけません。だれでも世を愛するなら、御父への愛は彼の中にありません。16 なぜなら、すべて世にあるもの、すなわち肉の情欲と目の情欲と生活の虚栄とは、御父から出たものではなく、世から出たものであるからです。

あなたは、あなたの内側にある罪と外側にあるこの世が、神に敵対するサタンの性質とサタンの体系であることをよく理解してください。魚は海の中に生きていますが、塩の影響を受けていないように、あなたがこの世の中にも、主の中で分離、聖別された生活をするのはできるのです。あなたは聖別のための壁を建造するために次のことを行ってください:

i) まずあなたは、この世があなたの内側の罪の性質を掻き立て、あなたに墮落した、証のない生活をさせようとしていることを信仰によって理解する必要があります。この世はサタンの体系ですので、用心しなければあなたはサタンに飲み込まれてしまいます。

ii) 次に、この世から聖別された生活を送ることは不可能であると考えてはいけません。それはあなたには不可能です。しかしキリストと召会の中で、信仰によって、聖別された生活を送ることは可能です。あなたは、あなたの内側に住んでいる罪とサタンの体系であるこの世に対する警戒心を持ってください。例えばエペソ4章は次のように言っています、

25 そういうわけで、偽りを脱ぎ捨て、おのおのその隣人と共に真実を語りなさい。なぜなら、わたしたちは互いに肢体であるからです。26 怒ったとしても、罪を犯してはいけません。日が暮れるまで、憤ったままでいてはなりません。27 また、悪魔に所を得させてはいけません。嘘をつくことは、それがさほど重大なものでなくても、罪とこの世に対して門を開くこととなります。また怒りに留まり続けることも同様ですので、警戒心に欠けた状態です。日常生活で、小さな嘘をつくことや、怒りの中に留まり続けることを対処することは、聖別する壁を建造することにつながります。

iii) 壁はイエスの卓越した真っすぐな人性ですので、あなたはイエスを食べ、彼の人性にあずかるべきです。あなたはこのために、少なくとも朝の5分から15分を用いて聖書の御言葉を兄弟姉妹と共に祈り読みして享受してください。アーメン！

経験②: 神を愛し、十字架を経験して、復活の中に入る

七の数は完全を表徴し、八の数は復活を表徴します。これは、私たちが内庭へと入って行くとするなら、復活の中にいる必要があることを示します。すべての天然の命と天然の人は廃棄され、十字架によって除き去られなければなりません。

私たちは内庭で、キリストの経験を繰り返します。私たちは、別の城門を通ることによって再びキリストを経験します。私たちは同じキリストを経験しますが、彼をさらに多く経験します。これは、私たちを内庭へと導きます。

私たちは一度で永遠に十字架を経験するものではありません。私たちは何度も十字架を経験します。主を追い求める者は、至る所で十字架に会います。…彼らは、子供たち…配偶者…あるいは病を通して十字架に会い、…召会を通して、あるいは同労者を通して十字架に会います。十字架が至る所にあるのは、私たちが十字架を経過して、神と接触しなければならないからです。主に感謝します。神は私たちに十字架を与えてくださり、十字架は私たちに神を与えます。最も神を愛し、最も彼を経験する者は、十字架を経過している者です。

在職青年編

神の家の内側の宮の前に、祭壇があります。また、祭壇は建物全体の真ん中にあります。この祭壇は十字架です。これは、キリストを享受する召会生活の中で、さらに前進するときに必ず十字架を経験しなければならないことを示しています。十字架がなければ、あなたは復活の中に入ることができず、召会生活を続けることができません。

あなたのビジネス・ライフを自分の權益のためではなく、神の權益、召会建造のために、ささげてください。そうでないと、神にはあなたのビジネス・ライフを祝福する方法がありません。「自分の權益のためではなく」を言うのは比較的簡単ですが、実際に実行しようとすると、必ず十字架を経過しなければなりません。あなたに内住する罪は非常に狡猾で、外側で召会の奉仕をしているときでも、内側で活発に働くことがあり得るのです。神のエコノミーはいつも内側から外側へ、霊から魂、体へ広がっていくことに注意してください。したがって、自分のビジネス・ライフを主にささげることにしても、内側で主に照らされ、罪を告白し、主と親密に交わることが重要です。

例えば、召会生活の中で十字架を経験していないなら、あなたは、他の兄弟姉妹が会社の中で出世したこと、あるいは、有名な企業に転職できたことを聞くと、主に感謝するのではなく、嫉妬するようになります。嫉妬心があるのに、無いように振る舞って、隠してはいけません。そうではなく、次のように祈るべきです:

「主イエスよ、私は純粋ではなく、汚れた者です。私の内側の嫉妬心を告白し、あなたの赦しと清めを求めます。主イエスよ、私の罪を赦してください。私の良心の汚れを清めてください。私を主と兄弟姉妹との命の交わりの中に留めてください。召会生活の中で前進させてください。召会建造のために私自身、私のビジネス・ライフをささげます。アーメン。」

ローマ 6:6 私たちは次のことを知っています。私たちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、私たちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。

また、エペソ書 4 章は、次のように言っています。

25 そういうわけで、偽りを脱ぎ捨て、おのおのその隣人と共に真実を語りなさい。なぜなら、わたしたちは互いに肢体であるからです。

日本人は、文化的な背景から、本音と建前を使い分けます。文化的な背景からというのは、文化を知恵として取ることで、摩擦を避けるための良い言い訳があるという意味です。しかし、聖書の御言葉の光のもとで、本音と建前を使い分けることは、偽りを語り、真理を語らないことです。あなたは、神の王国の民ですので、日本の文化ではなく、神の王国の文化の中で生きるために、嘘をつかない訓練が必要です。このためにも、あなたは十字架を経験しなければなりません。職場、召会生活、結婚生活で、あなたはいつも簡単に、習慣的に嘘をついていることに気付いて下さい。そして、自分の罪を告白してください。そうすれば、日本の文化を知恵とするのではなく、キリストを知恵として取ることができます。十字架を経験すれば、復活の中でキリストが知恵としてあなたにやってくるのです。ハレルヤ！

250 救いを得た確信と喜び—恵みによって救われる

- 1 はずみよ、来たれや！ ころはうたう；
尽きないあわれみ、さん美たかまる。
さまよっていたわれに、キリストは来られ、
かれの十字架にて、われを解ほうす。
- 2 めぐみのはげまし、ゆたかにあたえ、
さまようころを、しばり、とらえよ；
あいのかみをはなれて、さまようことなく、
なが霊のちからで、引き寄せたまえ。
- 3 なれのすくい得て、つみと死はなれ、
御子のかたちへと どう形化しませ。
主、われをたすけたゆえ、エベネゼルを建て、
ながよろこびにて、みちびき受ける。

250 得救的证实与快乐—藉恩得救

1. 来阿，你这万福泉源！调整我心来歌唱；
怜悯江河涌流不断，召我高声来颂扬。
我本外人离神流浪，基督亲来寻找我；
因要救我脱离死亡，祂竟为我被钉戳。
2. 我今天被你激励，对你恩典来负债；
我主，让此恩典维系我这流浪的心怀。
我认我是趋向流浪，趋向离开爱的神；
求你用你灵的力量，将我荡心来吸引。
3. 我已得着你的救恩，脱离罪恶和死亡；
但愿能作脱俗的人，显出神子的景况。
我今建立以便以谢，因你一直赐帮助；
因你喜悦，我望永得你的带领和眷顾。

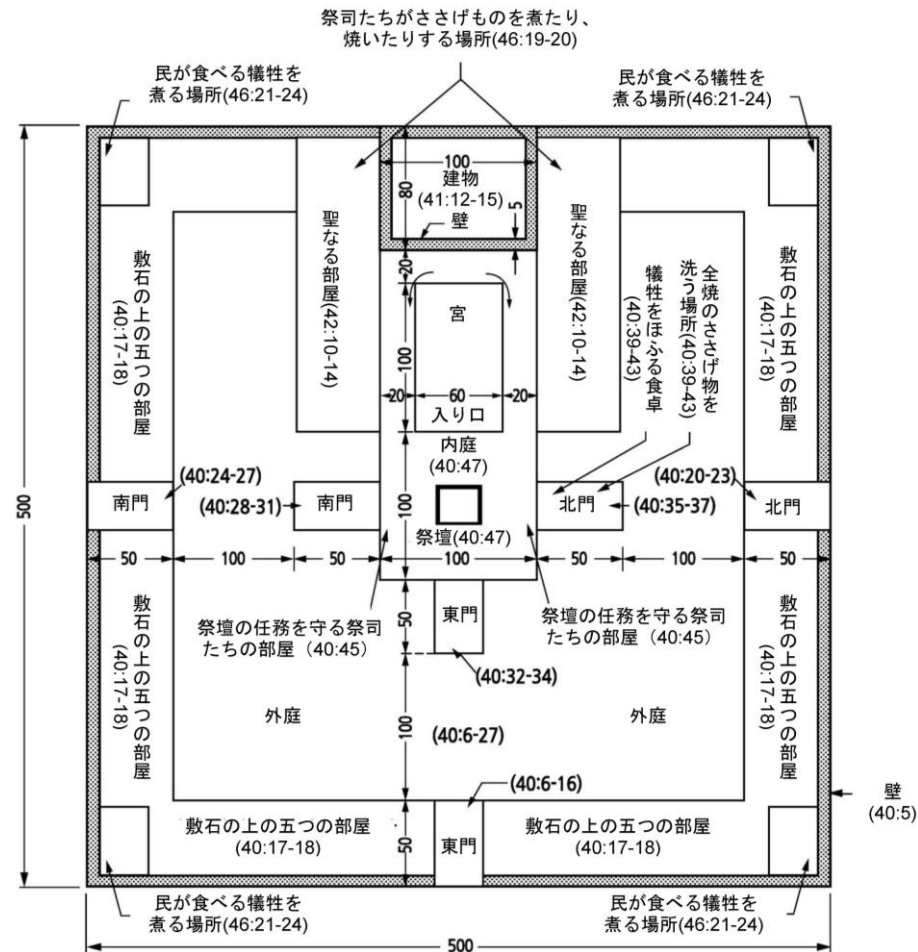
319. Assurance and Joy of Salvation
- Saved by Grace

1. Come, Thou Fount of every blessing,
Tune my heart to sing Thy grace;
Streams of mercy, never ceasing,
Call for songs of loudest praise.
Jesus sought me when a stranger,
Wand'ring from the face of God;
He, to save my soul from danger,
Interposed His precious blood.
2. O to grace how great a debtor
Daily I'm constrained to be!
Let that grace, Lord, like a fetter,
Bind my wand'ring heart to Thee.
Teach me, Lord, some rapturous measure,
Meet for me Thy grace to prove,
While I sing the countless treasure
Of my God's unchanging love.

3. Prone to wander, Lord, I feel it;
Prone to leave the God I love:
Take my heart, oh, take and seal it
With Thy Spirit from above.
Rescued thus from sin and danger,
Purchased by the Savior's blood,
May I walk on earth a stranger,
As a son and heir of God.

<預言のためのノート>

図表 1: 宮と内庭と外庭の配置図



寸法の単位は「キュビト」である。